



## 1995 - 2015 「20年」で想うこと

新年あけましておめでとうございます。この連載も私が担当しだして今回で早くも1年経ちました。毎回読んで頂きありがとうございます。これからもどうぞ宜しくお願い致します。皆様にとりまして、本年が明るく楽しい一年になりますよう祈念致しております。

2015年は、私にとって大きな節目の年です。米国で特許業務をやろうと私が日本からワシントンDCに引っ越してきたのが20年前、1995年の1月だったからです。

DCに到着したのは阪神大震災が起こるわずか1週間前のことでした。それまでは大阪に住んでいましたから、もしタイミングが少しずれていたら震災のせいで渡米は中止になったと思います。身体だけ米国に来たところで震災が起こり、船便が神戸港で止まって引っ越し荷物が届かない状態となって困りましたが、ともあれ米国での生活がスタートしました。

最初は、提携してもらったローファームのスペースを間借りしました。米国人の秘書を雇い入れて、私と2人だけの超零細経営。入れてもらっている大きなローファームに対し、こちらは「虎の威を借る狐」の状態でした。

それから20年。今では間借りではなく自前でオフィスを借りていますし、所員の努力があったことはもちろん様々な縁に恵まれたことも幸いして、撤退することなく続けてこられました。

さて、こんなふうには20年前のことを懐かしんでいるうちに、日米両国において過去20年で最も大きく変化したことは何だろう、という疑問が湧いてきました。長年2つの国を行き来しながら生活してきたので変化に気付きやすい立場にあるとは言え、改めて考えてみるとなかなか興味深そうです。

私的に最大の変化と呼べるのは「物価」だと思います。野菜やボールペンといった有形のものだけではなく、無形のものも含めてです。過去20年間で米国では物価がとても高くなり、日本では逆に安くなりました。

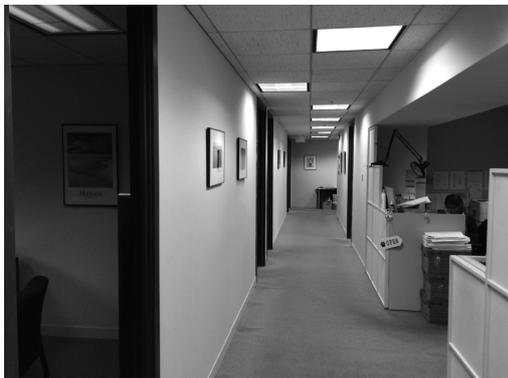
例えば毎日買う「昼食」。米国では日本人には2、3食分くらいになってしまいそうな大きなサンドイッチが主流です。昔は4ドルも出せばそれが買えましたが、今では10ドルでも普通。サンドイッチに10ドルも払うのは高くて嫌なのですが仕方ありません。これが日本だと、最近でこそようやく激安競争も鳴



りをひそめた感がありますが、井物や弁当類が、作っている人に気の毒なほど安くなりました。

ワシントンDCで特に高騰が顕著だったのは不動産価格です。私は渡米から約1年後に一軒家を買いました。敷地は約100坪、ベッドルームは3つ。日本の都市部だったら間違いなく広すぎる物件です。そんなに広くて通勤に便利なその家は、1ドル120円換算でも2000万円もしなかったのです。「安い!」と感動して買いました。現在、その家の近所にある類似の間取りの家の価格は2.5倍ほどになっています。日本では逆に、大都市圏でも不動産価格とは思えないほど安くなってしまった物件もあるようです。

そうは言っても、米国では日本に比べてスペースにまだ余裕があります。人口密度が米国と日本とでは約1桁違うのです。事務所仕様も、弁理士は個室で当たり前です。しかし、そのようなスペースの使い方の上に不動産価格の高騰がじわじわとのしかかってきているのを感じます。



その他にも米国で高くなったものは色々あります。逆に、日本ではデフレが長く続くうちに、何でも「安くて品質がよい」のが当たり前になったようです。いったんその状態に慣れてしまうと、提供する側が疲弊し尽くすほどになっても、人々はそのレベルを要求します。最近、日本に行くたびにその疲弊感

を感じ取らざるを得ない気がしています。米国では物価がずいぶん上がりましたが、それに連動して人々はさらに稼ごうとし、それが相乗効果となって発展しているのです、日本とは対照的にみえます。

こうして「20年」という枠に嵌めて二国を比較をしていると、なかなか感慨深いものがあります。私は日本を飛び出して、まず自分が頑張れる場所をつくり、そして同じ気持ちをもつ後輩達がいつでも日本から出て来れるよう受け皿をつくろうと努力してきました。今では、米国以外でも数か国に拠点をつくり、その国の人々を雇い、それぞれの国でビジネスを動かしています。現在、いくつかの新興国で進めているプロジェクトがあり、今後は日本よりもそうした国への出張が増えていくと思います。

おそらく、20年後にもしこれと同様の原稿を書く機会があったとしたら、今度は日米二国間の比較にはならないでしょう。20年後には日本という国が国際社会でどんなポジションにいるのかはわかりません。国境の壁が崩れ、国単位で考えることがナンセンスになっている可能性もあります。さて、その頃には私は一体何と何を比較して20年を振り返ろうとするのでしょうか。自分でも楽しみです。

## 筆者紹介

宮川良夫 (みやがわ よしお)

United GIPs代表、弁理士・米国パテントエージェント  
1956年 京都生まれ。1978年 同志社大学工学部卒業。  
1986年 弁理士登録、1997年 米国パテントエージェント登録。新樹グローバル・アイビー特許業務法人を初めとして、世界7カ国(地域)にて8箇所の特許事務所設立、経営に携わる。1995年以来、ワシントンDCに滞在し、現職場はGlobal IP Counselors, LLP。趣味は、Rock Creek Parkを有効利用した犬の散歩と子(孫?)育て。好きな言葉は「天地不仁」。